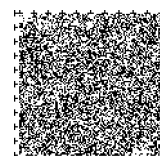


第2章

健康、健康づくりを

めぐる現況と課題



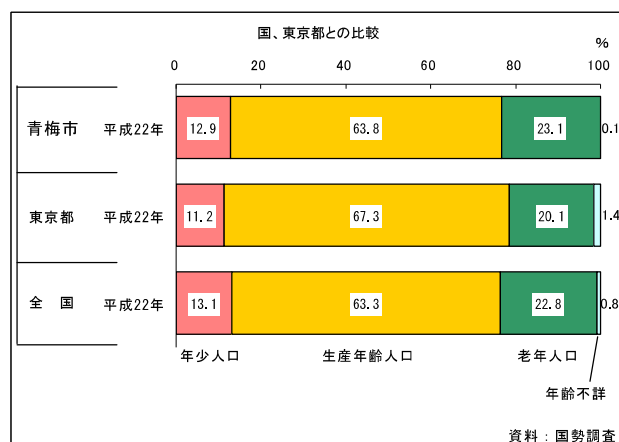
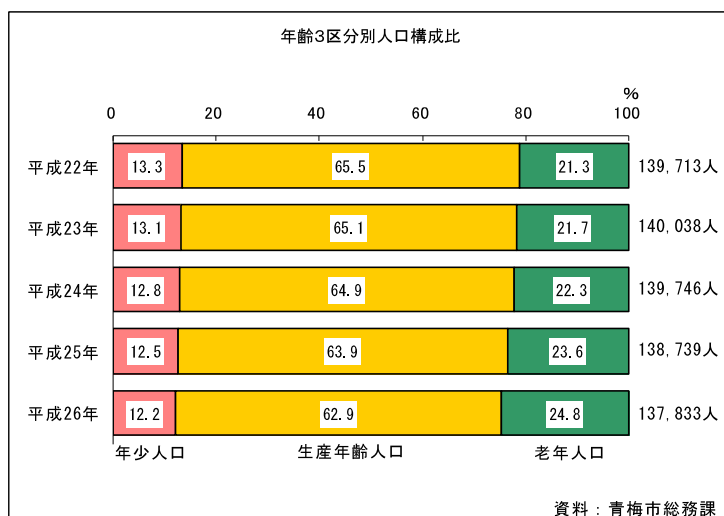
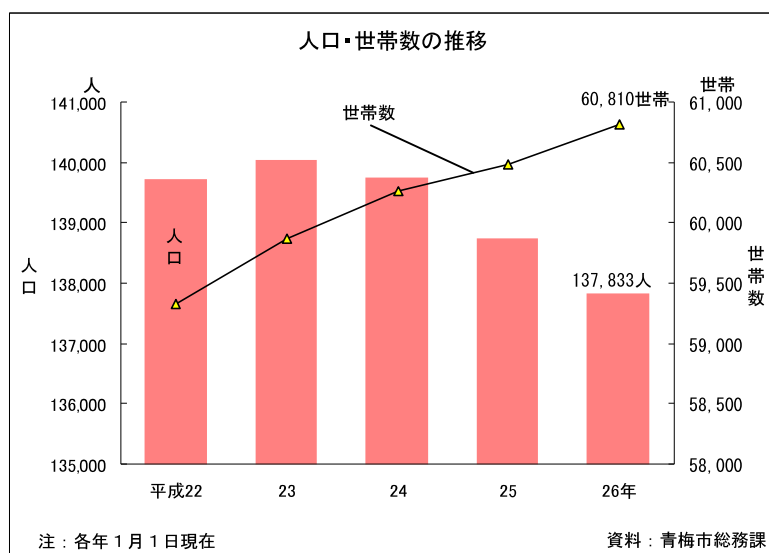
1 市民の健康状況

(1) 少子高齢化の進行

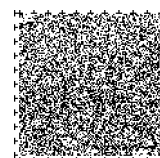
青梅市の総人口は、平成26年1月1日現在で137,833人、世帯数は60,810世帯となっており、世帯数は毎年増加しているものの、総人口は平成24年以降減少しています。

平成26年の年齢別人口の構成割合は、年少人口（0～14歳）12.2%、生産年齢人口（15～64歳）62.9%、老年人口（65歳以上）24.8%と少子高齢化が進行しており、ほぼ4人に1人が高齢者となっています。

また、国・東京都と直接比較のできる最新値である平成22年国勢調査の老年人口比率は23.1%で、全国平均（22.8%）や東京都平均（20.1%）を上回っており、高い水準となっています。本市の高齢化の進行が、他の地域よりも顕著であることが分かります。



※小数第2位を四捨五入して割合を算出している関係上、各項目の合計値が100にならない箇所があります。



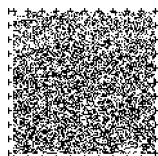
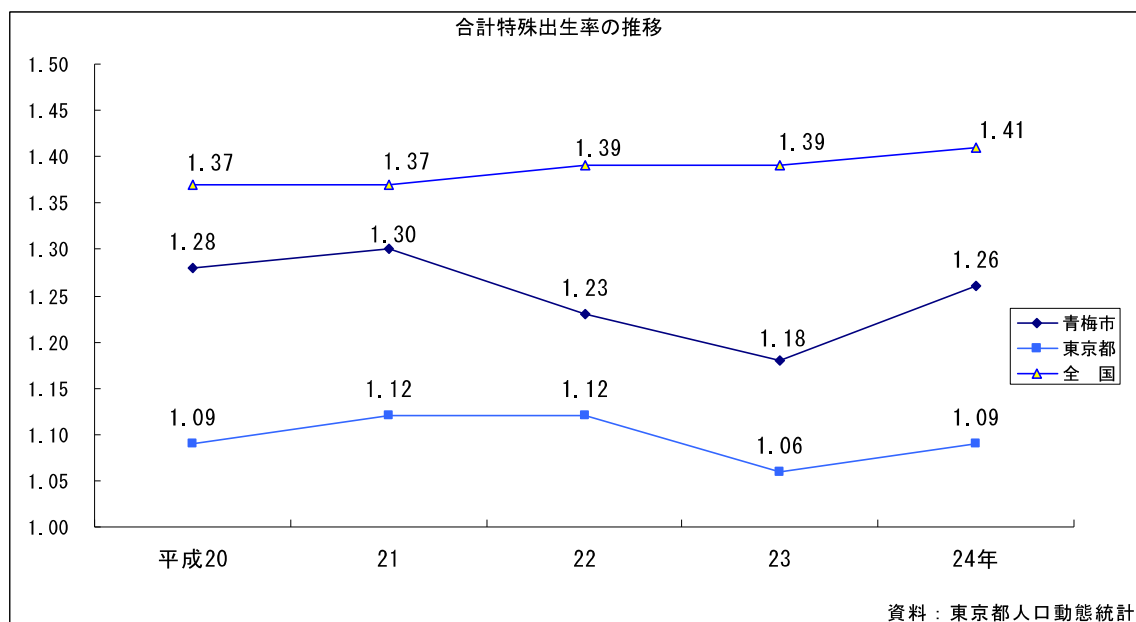
出生・死亡等の状況については、近年一貫して死亡数が出生数を上回っており、人口減傾向の一因となっています。また、低体重児、乳児死亡等は近年やや減少しています。

年次（平成）	20	21	22	23	24
出 生	1,055	1,044	969	904	940
低体重児 （再掲）	103	92	86	101	88
死 亡	1,435	1,550	1,405	1,453	1,534
乳児死亡 （再掲）	3	2	1	3	1
自然増減	－380	－406	－436	－549	－594
死 産	39	22	27	31	17
周産期死亡	5	2	8	5	2

注：「低体重児」とは、出生時の体重が2,500g未満の者をいう。

資料：西多摩保健医療圏 保健医療福祉データ集（平成25年版）

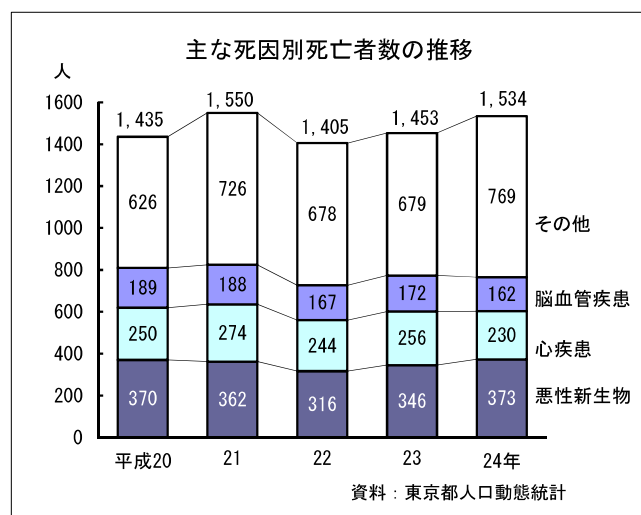
合計特殊出生率（女性が一生の間に産むと考えられる子どもの数）の推移をみると、近年は、東京都よりは高く、全国よりは低い水準で推移しています。平成24年の本市の数値は、1.26となっています。



(2) 生活習慣病による死因が多い

- 生活習慣と深い関係のある悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の三大疾病が、平成24年では総死亡数の49.9%を占めており、これは東京都をやや下回っています。

また、肺炎による死亡が近年多くなっています。



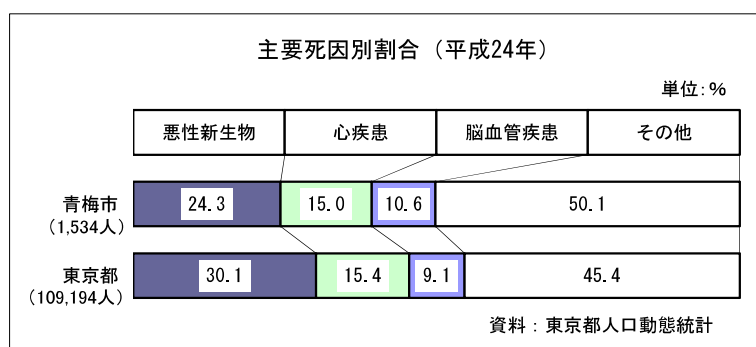
【参考】

肺炎による死亡（平成24年）

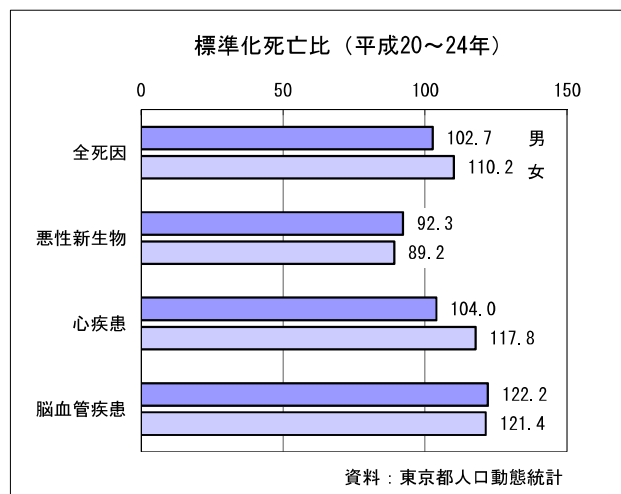
上段：人
下段：%

	死亡者総数	肺炎
東京都	109,194	10,149
	100.0	9.3
青梅市	1,534	173
	100.0	11.3

資料：東京都人口動態統計

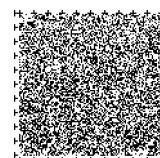


- 標準化死亡比においては心疾患、脳血管疾患のいずれも全国基準値（100.0）を大きく上回っています。本市の特徴として心疾患、脳血管疾患といった血管に関する死因が多いことが分かります。



標準化死亡比とは？

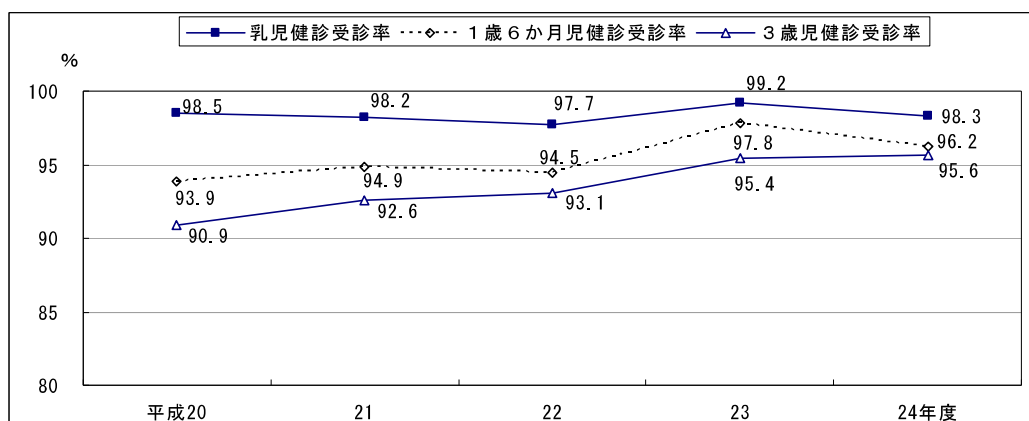
年齢構成の違いの影響を除いて死亡率を全国と比較したものであり、おもに小地域の比較に用います。標準化死亡比が基準値（100）より大きいということは、その地域の死亡状況が全国より悪いということをし、反対に基準値より小さいということは、全国より良いということをしします。



(3) 各種健診等の状況

① 乳幼児健康診査受診状況

最近5年間では、受診率が乳児健診（3～4か月児）では9割台後半という非常に高い値で推移し、1歳6か月児健診では微増・微減を繰り返しながら大きくみると微増しており、3歳児健診についても増加となっています。



資料：青梅市総務課

② 1歳6か月児および3歳児歯科健診の状況

少子化傾向に伴って、平成23年度以降は対象者数が少しずつ減少してきています。しかし、受診率については、1歳6か月児歯科健診では微増・微減を繰り返しているものの、3歳児歯科健診では、受診率が増加傾向を示しており、特に23年度以降は95%前後の高い水準で推移しています。

単位：人

○1歳6か月児歯科健診	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
対象者数	1,067	1,103	1,113	1,049	968
受診者数	1,001	1,044	1,045	1,019	925
受診率	93.8%	94.7%	93.9%	97.1%	95.6%

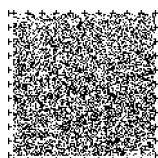
○3歳児歯科健診	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
対象者数	1,091	1,095	1,136	1,120	1,070
受診者数	990	1,000	1,053	1,064	1,014
受診率	90.7%	91.3%	92.7%	95.0%	94.8%

資料：青梅市総務課

③ がん検診等の状況

各種検診では、大腸がん検診と骨密度検診等で受診希望が多い傾向がみられます。胃がん検診、子宮頸がん検診と乳がん検診では、受診者数の減少が顕著になっています。

また、「要精検率」は、受診者は高齢者が多いこと等から、成人歯科検診で例年9割台（91.5%～95.6%）と突出して高くなっているほか、骨密度検診でも近年は「要精検率」が44%台と、比較的高い数値で推移しています。



【がん検診】

単位：人

検診名称	区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
胃がん検診	受診者数	1,459	1,626	1,372	1,429	1,205
	要精検者数	193	197	155	184	185
	要精検率	13.2%	12.1%	11.3%	12.9%	15.4%
子宮頸がん検診	受診者数	2,242	2,128	2,091	1,925	1,935
	要精検者数	18	14	14	17	21
	要精検率	0.8%	0.7%	0.7%	0.9%	1.1%
乳がん検診	受診者数	1,630	1,803	1,585	1,297	1,397
	要精検者数	153	158	75	96	83
	要精検率	9.4%	8.8%	4.7%	7.4%	5.9%
肺がん検診	受診者数	1,035	1,355	1,018	1,034	1,102
	要精検者数	29	41	26	18	29
	要精検率	2.8%	3.0%	2.6%	1.7%	2.6%
大腸がん検診	受診者数	16,241	16,648	16,190	17,029	16,978
	要精検者数	1,201	1,132	1,000	1,100	1,312
	要精検率	7.4%	6.8%	6.2%	6.5%	7.7%

【その他検診】

単位：人

検診名称	区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
骨密度検診	受診者数	950	969	918	944	956
	要精検者数	343	376	407	420	421
	要精検率	36.1%	38.8%	44.3%	44.5%	44.0%
成人歯科検診	受診者数	477	298	245	372	412
	要精検者数	447	285	231	343	377
	要精検率	93.7%	95.6%	94.3%	92.2%	91.5%
肝炎ウイルス検診	受診者数	1,598	939	522	891	991
	要精検者数	12	2	5	7	4
	要精検率	0.8%	0.2%	1.0%	0.8%	0.4%

資料：青梅市総務課

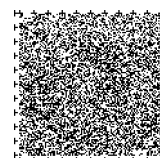
④ 総合健康診査（人間ドック）の状況

受診者は、平成22年度までは1,500人台以上が続きましたが、同24年度には1,381人まで減少しています。

正常率は0.3%～1.2%と非常に低く、経過観察率は58.6%～66.1%で、要精検率は31.3%～39.0%と例年3割台の比較的高い数値となっています。なお、「要精検」とは、「要治療」も含めて「念のため、精密検査を受けていただきたい」という状態を指しています。

○総合健康診査（人間ドック）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
受診者数	1,606	1,500	1,519	1,414	1,381
正常率	1.2%	0.5%	0.6%	0.3%	0.4%
経過観察率	60.1%	66.1%	58.6%	63.1%	62.1%
要精検率	36.5%	31.3%	39.0%	35.1%	35.4%
要治療率	2.1%	2.0%	1.9%	1.6%	2.2%

資料：青梅市総務課



(4) 特定健康診査・特定保健指導、後期高齢者医療健康診査の状況

① 特定健康診査・特定保健指導

平成 20 年度から開始された「特定健康診査」の受診率は、初年度が 42.5%、次年度が 42.0%であり、22 年度以降は、上昇傾向にあります。

「特定保健指導」の実施率は、「動機付け支援」と「積極的支援」を合わせて、近年は 20%台で推移していましたが、平成 25 年度は 15.8%と、20 年度（29.4%）と比べると半減しています。

○特定健康診査	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受診券発行数	28,210	28,687	29,251	29,441	29,803
受診者数	11,842	12,389	13,231	14,280	14,509
受診率	42.0%	43.2%	45.2%	48.5%	48.7%

○特定保健指導		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
動機付け支援	対象者数	919	937	1,016	1,129	1,061
	実施者数	223	254	282	318	194
	実施率	24.3%	27.1%	27.8%	28.2%	18.3%
積極的支援	対象者数	319	355	381	455	388
	実施者数	44	65	60	83	35
	実施率	13.8%	18.3%	15.7%	18.2%	9.0%
計	対象者数	1,238	1,292	1,397	1,584	1,449
	実施者数	267	319	342	401	229
	実施率	21.6%	24.7%	24.5%	25.3%	15.8%

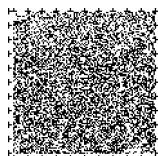
資料：青梅市総務課

② 後期高齢者医療健康診査

75 歳以上の後期高齢者を対象とした「後期高齢者医療健康診査」も特定健康診査と同時に開始され、受診率が、初年度である平成 20 年度以降上昇を続けています。

○後期高齢者医療健康診査		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受診券発行数		10,488	10,787	11,321	11,937	12,499
受診者数		5,216	5,381	5,876	6,447	6,969
受診率		49.7%	49.9%	51.9%	54.0%	55.8%
健診結果	異常なし	329	348	404	382	392
	要指導	962	543	861	1,069	1,236
	要医療	1,009	1,349	961	920	971
	治療中	2,916	3,141	3,650	4,076	4,370

資料：青梅市総務課



(5) 国民健康保険給付状況

国民健康保険による療養給付費の受診件数、総費用額、1件当たりの費用額、および高額療養費の件数、給付額とも、平成16年度から25年度の間、ほぼ一貫して増加しています。

まず受診件数では、平成16年度448,960件であったものが、同25年度には593,911件と、144,951件・3割強(32.3%)の増加となっています。

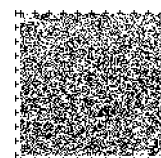
また、1件当たりの費用額でも、平成16年度に17,527円であったのが、同25年度には19,853円と、2,326円・1割強(13.3%)の増加となっています。

さらに高額療養費の件数、給付額については、件数が、平成16年度6,545件で総受診件数に占める割合が1.46%であったのが、同25年度には、件数が17,777件と11,232件増・2.7倍、総件数に占める割合も2.99%と2.0倍の増加となっています。

また、給付額は、平成16年度に572,596千円であったのが、同25年度には、1,064,330千円と、491,734千円の増加・約1.9倍となっています。

年 度	療 養 給 付 費			高 額 療 養 費	
	受診件数	総費用額(円)	1件当たり 費用額(円)	件 数	給付額(円)
平成16年度	448,960	7,868,831,161	17,527	6,545	572,596,166
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
平成20年度	544,492	9,879,188,895	18,144	12,542	796,935,237
平成21年度	560,589	10,119,877,004	18,052	12,919	793,189,069
平成22年度	570,812	11,011,964,619	19,292	14,731	939,528,520
平成23年度	581,980	11,208,616,327	19,259	15,293	974,506,300
平成24年度	590,323	11,497,957,290	19,477	17,055	1,021,907,749
平成25年度	593,911	11,790,622,885	19,853	17,777	1,064,330,282

資料：青梅市保険年金課



(6) 介護保険の状況

① 要介護（要支援）認定者数等

要介護（要支援）認定者数、出現率（認定者数／第1号被保険者数）は年々増加しており、平成26年9月末現在では、それぞれ4,926人、14.7%となっています。

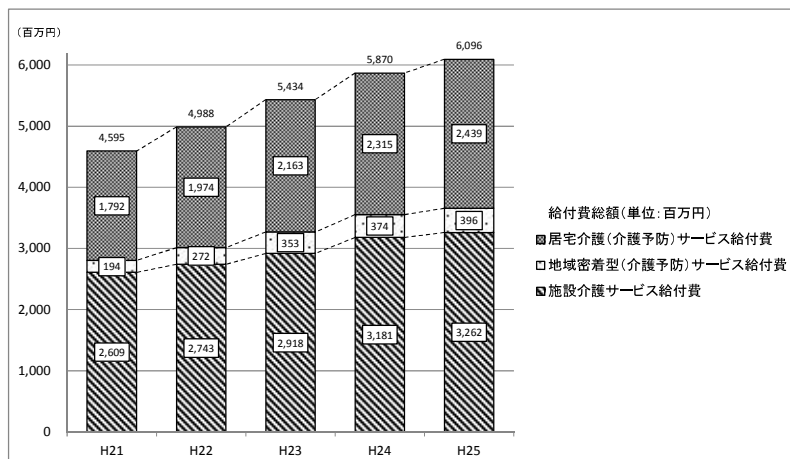
区 分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
第 1 号被保険者数	27,503	28,348	29,053	30,553	32,112	33,584
認定者数	3,437	3,744	4,094	4,379	4,648	4,926
要支援 1	573	561	611	707	712	741
要支援 2	373	461	512	538	681	701
要介護 1	610	656	734	805	859	867
要介護 2	521	587	642	619	666	751
要介護 3	548	521	528	560	564	618
要介護 4	419	522	556	627	648	716
要介護 5	393	436	511	523	518	532
出 現 率	12.5%	13.2%	14.1%	14.3%	14.5%	14.7%

資料：介護保険事業状況報告（各年9月末現在）

② サービス給付費

介護保険サービスの年間給付費総額は年々増加しており、平成25年度では約61億円となっています。地域密着型（介護予防）サービスでは、同21年度と比べると25年度には2倍以上となっています。

区 分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
給 付 費 計（円）	4,594,616,717	4,988,454,979	5,434,174,844	5,869,779,805	6,096,227,121
居宅介護（介護予防）サービス	1,791,760,626	1,974,271,928	2,163,033,954	2,315,326,570	2,438,997,192
地域密着型（介護予防）サービス	193,840,800	271,559,689	352,956,330	373,738,665	395,513,164
施設介護サービス	2,609,015,291	2,742,623,362	2,918,184,560	3,180,714,570	3,261,716,765

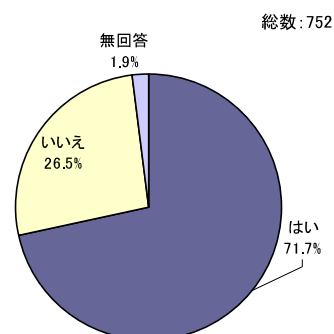


資料：介護保険事業状況報告

2 健康づくりを取り巻く環境（「市民意識調査」結果より）

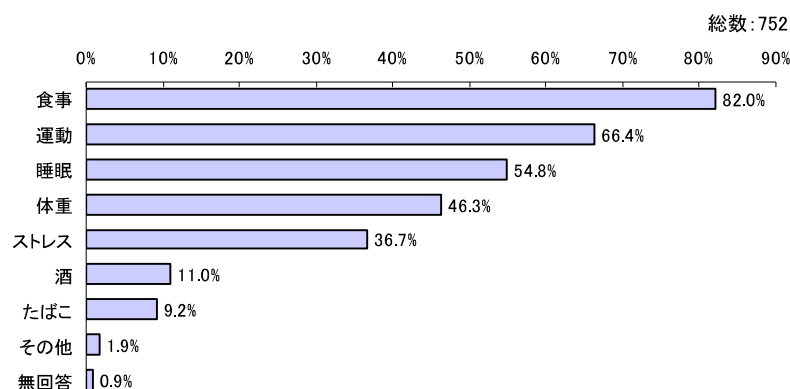
（１）健康の意識

- 『自分は健康だと思うか』では、「はい」が7割強を占めて多くなっており、良好な“主観的健康観”となっています。



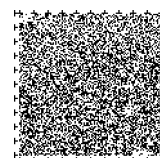
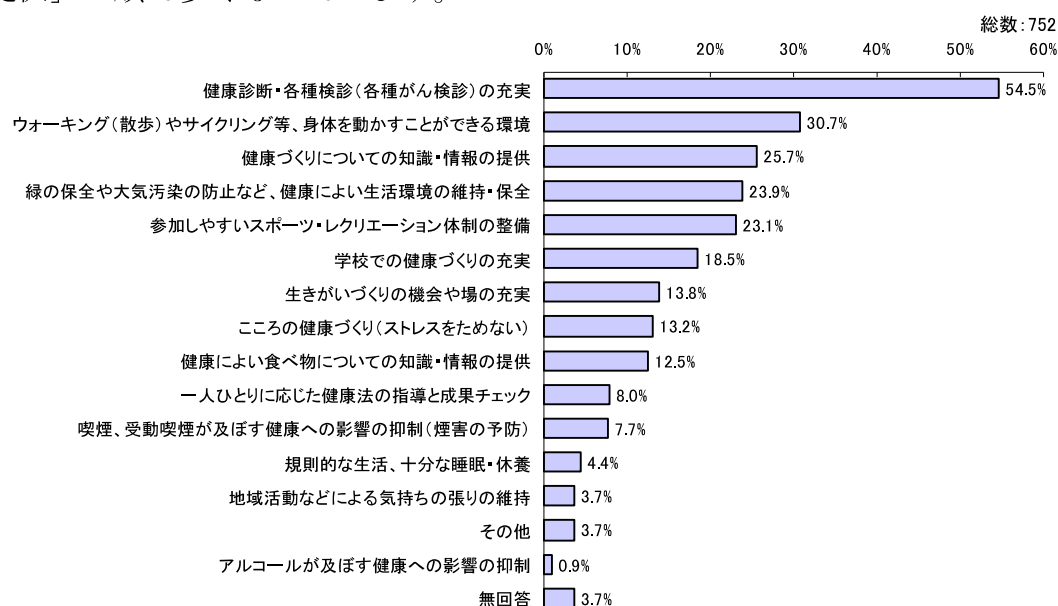
（２）健康で気をつけていること・今後気をつけたいこと

- 『健康に関して気をつけていること、今後気をつけたいこと』では、「食事」という回答が最も多く、「運動」、「睡眠」等が続いています。



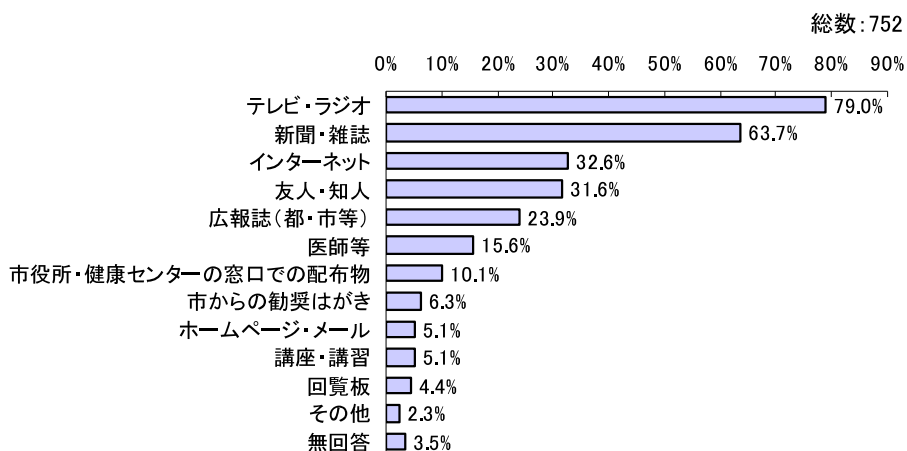
（３）重点的に取り組んでほしいこと

- 健康づくりのために『市に重点的に取り組んでほしいこと』としては、「健康診断・各種検診（各種がん検診）の充実」が最も多く、次いで「ウォーキング（散歩）やサイクリング等、身体を動かすことができる環境」、「健康づくりについての知識・情報の提供」の順で多くなっています。



(4) 健康情報を何から得ているか

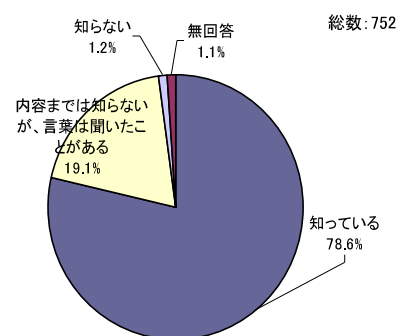
- 『健康づくりに関する主な情報源』としては、「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで「新聞・雑誌」が多くなっています。



(5) 「生活習慣病」、「内臓脂肪症候群」の認知度

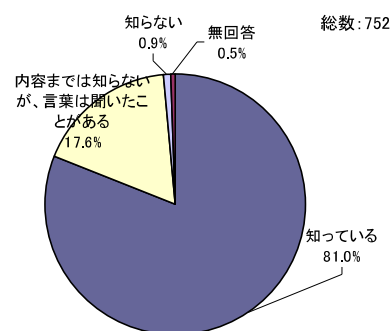
- 『生活習慣病とは何か知っているか』

では、「知っている」が78.6%と8割近くを占め、最も多くなっています。



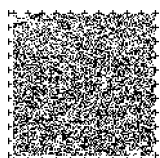
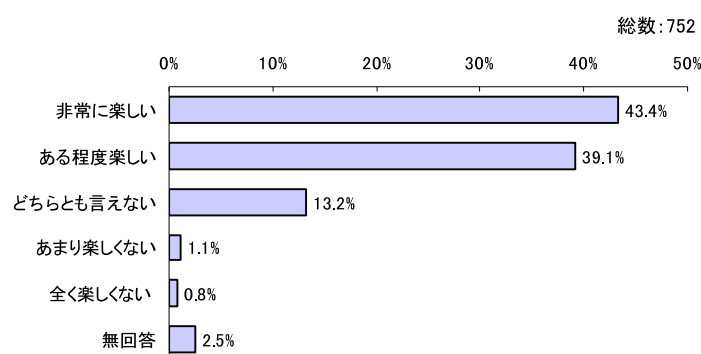
- 『内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）

とは何か知っているか』については、「知っている」が81.0%と8割強を占め、最も多い回答となっています。

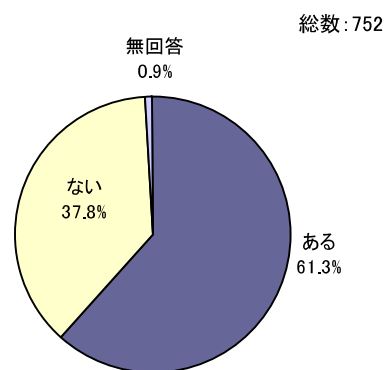


(6) 食生活・食育

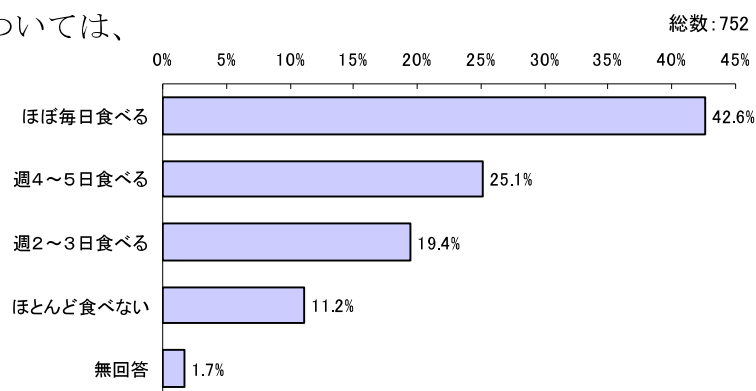
- 『家族や友人と食事をするのが楽しいか』については、「非常に楽しい」との回答が最も多く、「ある程度楽しい」が続いており、合わせた割合は82.5%と8割を超えています。



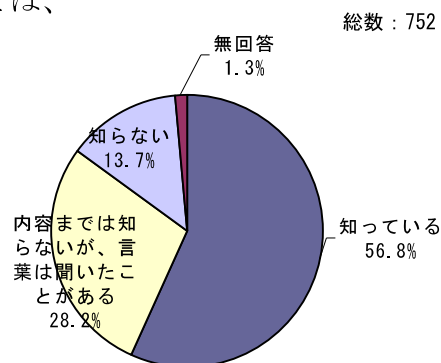
- 『「食事バランスガイド」を見たことがあるか』については、約6割の人が「ある」と答えています。



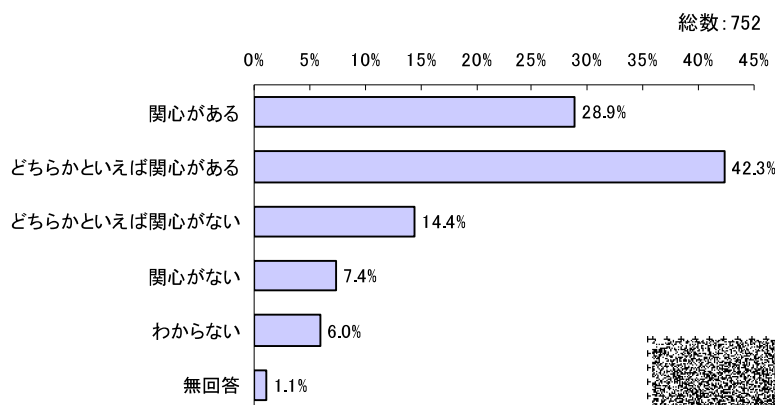
- 『1日に2回以上主食・主菜・副菜を揃えて食べる日が、週に何日あるか』については、約4割の人が「ほぼ毎日食べる」と答えています。



- 『「食育」という言葉を知っているか』については、56.8%の人が「知っている」と答えています。



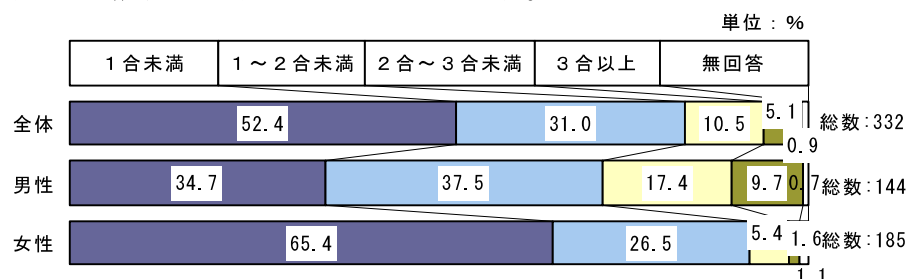
- 『「食育」に関心があるかどうか』については、42.3%の人が「どちらかといえば関心がある」と答えて最も多く、次いで多い「関心がある」も合わせると71.2%と、多少なりとも関心のある人が7割を超えています。



(7) 飲酒

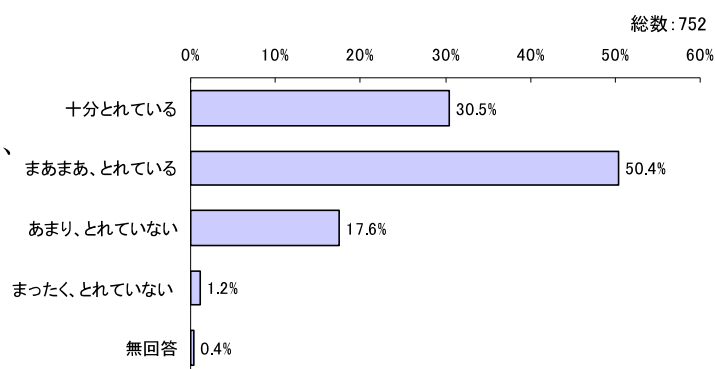
- 飲酒をする人に1日の日本酒換算の分量をきいたところ、過半数が「1合未満」と回答し、最も多くなっています。
(※→53ページ参照)

また、男性の方が女性よりも飲酒量が多く、「3合以上」飲むという人がほぼ1割と、女性（1.6%）の6倍以上の割合を示しています。



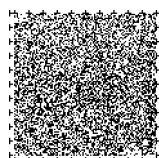
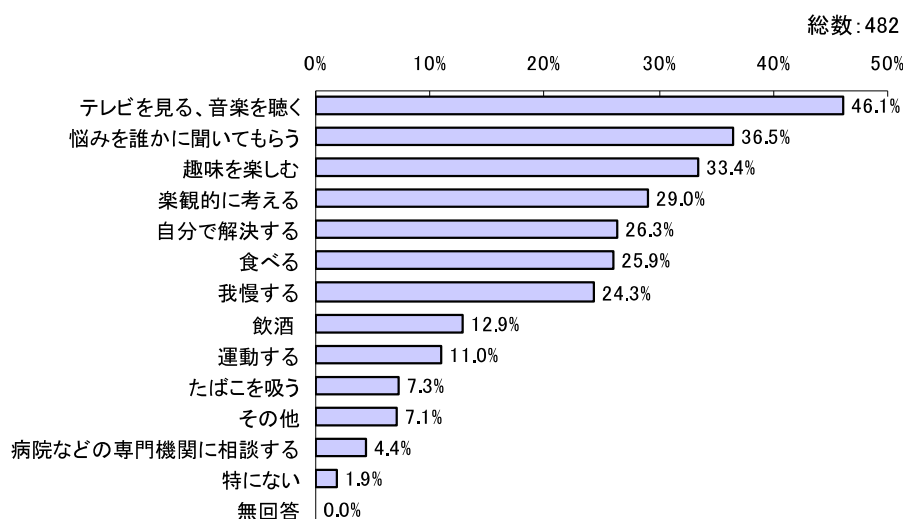
(8) 睡眠とこころの健康

- 『睡眠は十分とれていると感じているか』では、「まあまあ、とれている」という答えが約半数で最も多く、「十分とれている」（30.5%）を合わせると約8割の人が、一定以上睡眠をとれていることがわかります。

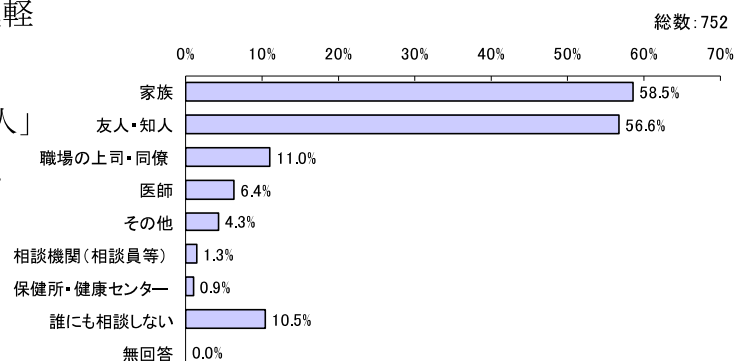


- ストレスがあったときの対処法としては、「テレビを見る、音楽を聴く」（46.1%）という答えが最も多く、「悩みを誰かに聞いてもらう」、「趣味を楽しむ」が3割台で続いています。

「特にない」は約2%となっています。



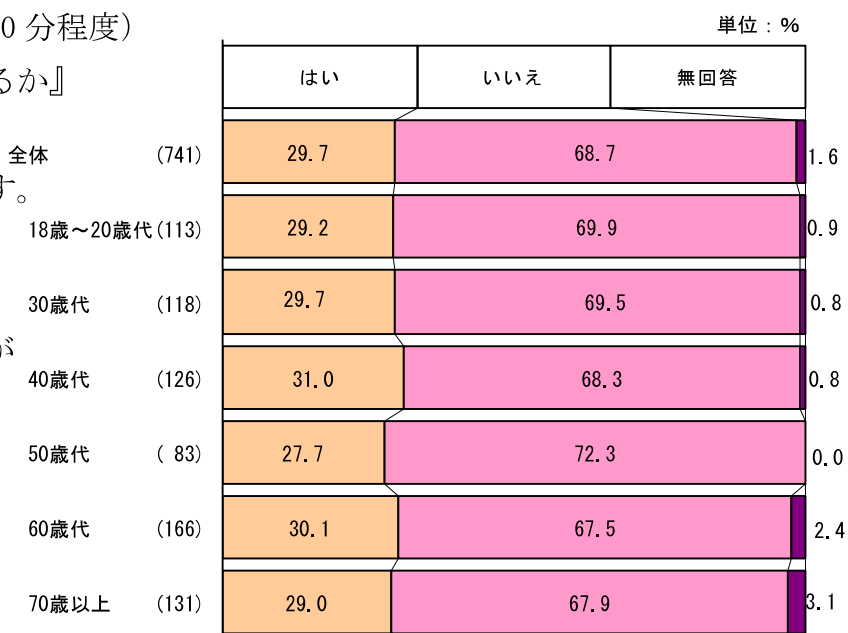
○ 『ストレスを抱えたとき、気軽に相談できる相手』として、全体では「家族」(58.5%)、「友人・知人」(56.6%)が過半数と多く挙げられています。また、「誰にも相談しない」も10.5%と、約1割もみられることが分かります。



(9) 歯と口の健康

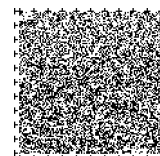
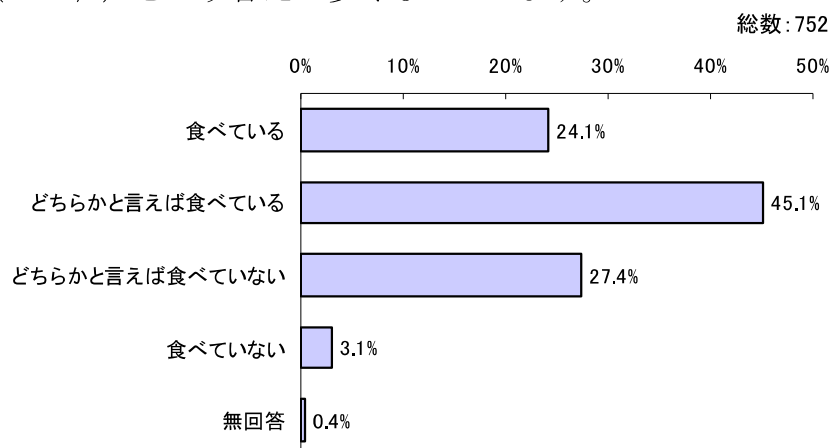
○ 『1日1回は十分な時間(10分程度)をかけて丁寧に歯を磨いているか』では、「はい」は29.7%と、

年齢別にみると、「はい」の割合は50歳代でやや少なく27.7%で、反対に「いいえ」がやや多く、7割を超えています。



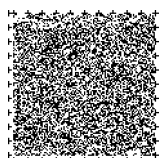
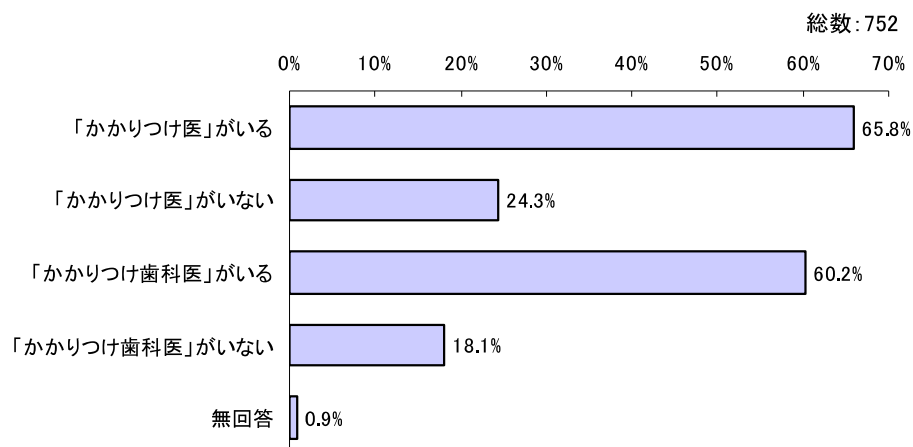
注: () 内は回答者数

○ 『ふだん、よく噛んで味わって食べているか』については、「どちらかと言えば食べている」という答えが最も多く4割台半ばを占め、次いで、「どちらかと言えば食べていない」(27.4%)という答えが多くなっています。



(10) かかりつけ医

- 『「かかりつけ医」や「かかりつけ歯科医」がいるか』については、「かかりつけ医」がいる人は65.8%、「かかりつけ歯科医」がいる人は60.2%となっています。



3 「第2次計画」の評価

◇「評価」について

A…目標値に達した B…改善しているが、目標値には達していない
C…変わっていない D…悪くなっている

- ・「☆」印は、「市民意識調査」の結果を用いて評価を行っている指標を表しています。
- ・ベースライン値と比較して統計的誤差の範囲内と考えられる場合等は、総合的に判断を行い、“評価”欄では「C」としています。

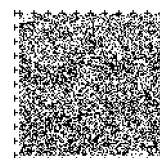
(1) 食生活

指 標	ベースライン値 (2008 年度)	目標値 (2014 年度)	平成 25 (2013) 年度値	評価
・適正体重を維持している人の増加				
児童・生徒の肥満／小学校4年生男子	2.6%	減らす	1.8%	A
／小学校4年生女子	1.4%	減らす	0.9%	A
／中学校1年生男子	2.4%	減らす	2.3%	A
／中学校1年生女子	1.1%	減らす	1.3%	C
20歳代女性のやせ☆	21.6%	減らす	19.1%	A
20～60歳代男性の肥満☆	19.6%	減らす	26.3%	D
40～60歳代女性の肥満☆	16.4%	減らす	18.1%	D
・朝食を欠食する人の減少☆				
男性（20歳代）	17.3%	15%以下	10.9%	A
男性（30歳代）	31.4%	15%以下	20.6%	B

「朝食を欠食する人の減少」については、「男性」の目標を設定しましたが、20歳代では、目標値を達成しています。しかし、30歳代では、減少してはいるものの目標値には達していません。

「適正体重を維持している人の増加」については、20歳代女性の“やせ”は減少し目標値を達成したのに対して、“肥満”では男女とも数値が悪化してしまっています。児童・生徒の肥満については、おおむね目標を達成していますが、中学校1年生の女子のみ数値が若干悪化しています。

* 「20歳代」は、厳密には18～29歳を対象とした数値となっています。



(2) 身体活動（運動・生活活動）

指 標		ベースライン値 (2008 年度)	目標値 (2014 年度)	平成 25 (2013) 年度値	評価
・運動習慣者の割合☆					
	男性	42.0%	増やす	44.6%	A
	女性	39.6%	増やす	38.6%	C

「運動習慣者（週に2日以上、ウォーキング、ジョギング、水泳など息のはずむ程度の運動を30分以上している人）」の割合では、女性で数値が基準年より僅かに悪化しているものの、男性では目標を達成しています。

(3) 休養・こころの健康

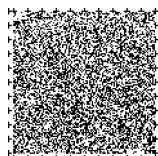
指 標		ベースライン値 (2008 年度)	目標値 (2014 年度)	平成 25 (2013) 年度値	評価
・ストレスを感じた人の減少☆		71.3%	減らす	64.1%	A
・睡眠による休養を十分にとれていない人の減少☆		37.9%	減らす	18.8%	A
・悩みや心配事等を誰にも相談しない人の減少☆		14.8%	減らす	10.5%	A

「睡眠による休養を十分にとれていない人の減少」など3項目すべてで目標（値）を達成しています。特に「睡眠による休養を十分にとれていない人の減少」では、数値が半分以下に減少しています。

(4) 喫煙・飲酒

指 標		ベースライン値 (2008 年度)	目標値 (2014 年度)	平成 25 (2013) 年度値	評価
・喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及☆					
	肺がん	93.0%	すべての人に知ってもらう	87.0%	(D) ※
	ぜんそく	64.9%		53.7%	
	気管支炎	69.4%		60.2%	
	心臓病	44.6%		40.0%	
	脳卒中	39.8%		39.1%	
	胃潰瘍	17.2%		15.7%	
	妊娠に関連した異常	67.8%		56.1%	
	歯周病	25.0%		27.5%	

* 8項目中「歯周病」を除く7項目で数値が悪化している



・喫煙している人の割合☆	男性 30 歳代	35.7%	減らす 減らす 減らす	23.5%	A
	男性 50 歳代	40.5%		18.2%	
	女性 18～29 歳	13.7%		4.3%	
・多量に飲酒する人の割合☆	男性	39.5%	減らす 減らす	27.1%	A
	女性	20.2%		7.0%	

「喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及」の各指標の内の“歯周病”を除くほとんどで、基準年と比べて数値が悪化を示しています。

一方で、「喫煙者の割合」については、男女のすべての項目で目標を達成しています。

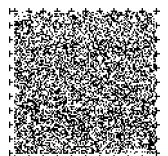
飲酒に関する指標（「多量飲酒者の割合」）については、男女ともで目標を達成しています。

（５）歯と口の健康

指 標	ベースライン値 (2008 年度)	目標値 (2014 年度)	平成 25 (2013) 年度値	評価
・歯科疾患の目標				
むし歯のない幼児の割合（３歳）	80.0%	85%以上	85.9%	A
むし歯のない幼児の割合（５歳）	50.2%	55%以上	58.4%	A
歯肉に炎症所見の認められる者（G O、および G）の割合（12 歳）	26.9%	20%以下	30.8%	D
進行した歯周病にかかっている人の割合(40 歳)	52.9%	減らす	50.0%	A
60 歳で 24 歯以上、自分の歯を有する人の割合	63.7%	増やす	67.4%	A
・生活習慣の目標				
甘味食品をほぼ毎日食べる人の割合（３歳）	36.5%	減らす	31.5%	A
フッ化物配合歯磨剤を使用している人の割合（３歳）	64.4%	70%以上	72.6%	A
週に１回以上、子どもの歯と口腔を観察している人の割合（５歳）	72.2%	80%以上	81.6%*	A
１日１回は、十分な時間（10 分程度）をかけて丁寧に歯を磨く人の割合（18～39 歳）☆	34.0%	40%以上	29.4%	D
歯間部清掃用器具を使用している人の割合（40 歳代）	44.4%	増やす	47.2%	A
月に１回以上、歯や歯ぐきの自己観察をしている人の割合（50 歳代）	41.8%	増やす	55.0%	A
定期的な歯科健康診査の受診者の増加（40～69 歳）☆	37.7%	増やす	41.6%	A

*平成 26 年度「青梅市歯科保健実態調査」結果による

基準年よりも数値が悪化しているのは、「歯肉に炎症所見の認められる者の割合（12 歳）」と「１日１回は十分な時間（10 分程度）をかけて丁寧に歯を磨く人の割合（18～39 歳）」で、これら以外の項目については目標数値を達成しています。



(6) 生活習慣病予防・健康管理

指 標	ベースライン値 (2008 年度)	目標値 (2014 年度)	平成 25 (2013) 年度値	評価
・ 健康診査を受ける人の増加☆ 健診受診率	67.2%	上げる	75.1%	A
・ がん検診の検診受診率の向上☆				
胃がん	20.9%	上げる	21.2%	A
子宮がん (子宮頸がん)	34.3%	上げる	30.5%	D
乳がん	29.1%	上げる	27.6%	C
肺がん	9.0%	上げる	17.0%	A
大腸がん	22.5%	上げる	35.2%	A
・ 「かかりつけ医」 がいる人の割合	53.6%	70%以上	65.8%	B
・ 自分は健康だと思う人の割合	67.9%	上げる	71.7%	A

おおむねどの項目においても基準年よりも数値が改善していますが、目標達成には至らなかった項目もみられます。また、基準年と変わらず、あるいは数値が悪化した項目もありました。

「健康診査を受ける人の率」については、基準年よりも 7.9 ポイント増加して目標を達成し、また「がん検診の受診率」については、胃がん・肺がん・大腸がんで向上し、目標を達成しています。しかし、女性特有のがんに関する検診では、受診率がほぼ横ばいまたは悪化となっています。

「かかりつけ医」がいる人は基準年より 10 ポイント以上増加しましたが目標値には届かず、「自分は健康だ」と思う人は基準年よりも増加して目標を達成しています。

(7) まとめ

“休養・こころの健康” 分野ではすべての項目で目標を達成し、取り組みの進捗がうかがえます。“歯と口の健康” 分野でも、目標達成率は高くなっています。“食生活” の分野でも目標達成率は高いものの、中年期以降の男女の肥満が依然課題となっているほか、若い男性等では朝食欠食の傾向もみられます。

喫煙・飲酒については、それ自体の比率は低下してきています。

健康診査を受ける人の割合は約 75%、「かかりつけ医」がいる人の割合は過半数となっていますが、いっそうの増加を図っていく必要があります。また、女性特有のがんに関する検診の受診率の向上を図っていくことも重要な課題です。

